

福祉ワークショップ意見まとめ

(令和4年度実施・境港市福祉保健部と境港市社会福祉協議会との共同開催)

地区	開催日時			参加者(人)
渡	11月14日	月曜日	19:30~21:00	11
外江	11月8日	火曜日	19:30~21:00	9
境	11月7日	月曜日	19:30~21:00	16
上道	11月9日	水曜日	19:30~21:00	16
余子	11月22日	火曜日	19:30~21:00	5
誠道	11月20日	日曜日	9:00~10:30	14
中浜	10月25日	火曜日	19:30~21:00	15
合計				86

渡	意見等
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 健康で長生きするためには、食事や体を動かすことのほか、会話や外出が大切だと思う。 はまループバスは、決まったバス停だけでなく、ある程度柔軟に対応してもらえるとよい。 100歳体操などの集まりに参加しない方への対応が必要と思う。 高齢者実態調査で民生委員が対象者に聞き取りを行っているが、対象人数は増え続けている。65歳からが対象だが、今の65歳はまだまだ元気であり、民生委員の負担が増えて大変だと思う。 高齢者世帯増加の対策のため、支えあいマップを作成しようと思っていたが、コロナ禍でできていない。避難行動要支援者名簿を基に何かできないか考えている。情報は共有した方がよいと思う。 60代はまだ現役で働いている。仕事終わりで、上の世代の高齢者の世話をしている人も多く、疲弊している。支えあう人づくりが構築されればよいと思う。 ふれあいの家の世話役が辞めたがっているが、代わりがないためやめられない。参加者も減ってきている。 社会福祉協力員をする人がいない。仕方がないので、班の中で順番に否応なしに出すようにしている。 家を出て集まるのがよい。2時間があつという間に過ぎる。ふれあいの家事業は残して欲しい。渡は13か所でふれあいの家事業を行っている。

<p>障がい者 福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 障がい者の多くは身近にいない。 • 周囲は気を使うが、直接的な支援をすることはなく、障がい者の家庭で助け合いながら生活されている感じがする。 • 近所の横断歩道の塗装が薄くなってきており、適宜補修して欲しい。 • 世間体を気にするせいか、ひきこもりなどオープンにしない傾向である。 • 高齢者と障がい者は密接な関係にあるので、区別しないで同じように支援に取り組んでいけばよいと思う。 • 避難行動要支援者名簿を受け取って、初めて障がいのある方がいることを知ることもある。だいたい家族がしっかりとサポートしている。光洋の里が近いこともあり、交流会も行っている。 • 障がいのある方から、助けて欲しいと言われた場合にどう対応してよいかわからないため、支援は難しいと思う。 • 認知症の高齢者の子に精神障害がある世帯への接し方や対応の仕方が難しいと感じている。 • 個人や自治会から相談があった場合は、民生委員が行政につなげている。
<p>児童福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 知らない人には注意するように教育されているのか、子どもに声掛けしてもなかなか返事が返ってこない。見守りがしにくい。 • 個人情報の問題だと思うが、子ども会の人数を聞いても教えてもらえない。 • 見守り隊の活動を行っている。登下校時のケアはできていると思っている。 • 子どもが減ってきている。子ども会を継続させていきたいが、なかなか活動が難しい。 • コロナ禍で子ども会の行事（子どもみこしなど）ができていない。 • スマホを持つ小学生間で不登校や、仲間外れなどのトラブルがある。なかなか親も子どもの中に入れないし、どう対処してよいかわからない。 • 子どもにスマホの使い方を学校などで教える必要あり。スマホを持っていない子どもが疎外感を感じないように対応しないといけないと思う。SNSにどっぷり浸かるのではなく正しい使い方を徹底することが児童福祉につながってくると思う。 • 共働き世帯が多くなっている中、学童ができて良かったと思う。 • ふれあいの家の方と児童と一緒に遊ぶような取り組みの提案があった。保護者から子どもの安全が担保できないとの意見が出て、実現できなかった。異世代交流は大切なので、アイデアとしては良いと思う。 • 渡地区は学童にいち早く取り組んだ。 • ヤングケアラーも児童虐待も泣き声が普通と違うので、地域で気づいて市に発信していかないとわからない。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 認知症と思われる方が近所にいるが、近所でも話がしにくく、対応に困り、家族に話せなかった。民生委員に相談して対応を依頼した。 • 自治会が行う資源ごみの回収の仕方について、雨が降ったら回収を中止しているが、高齢者は待っているのが、自治会の大変さはわかっているが、

	<p>対応してあげて欲しいと感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 色々な地域を見てきているが、今、行政は地域に頼っている。民生委員や自治会もそう。今はやってくれているが、今後はわからない。リーダー不足の中、さらになり手がなくなる。これを行政はどう考えていくのか。 • みんなが努力して、次世代の人を育成していこうと頑張っているが、なかなか難しい。 • 若い人が集まってこれからどうして行くのか話し合う場が必要と思う。
--	--

外江	意見等
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> • 外江地区は4つの会館でふれあいの家事業を実施している。以前から家の近所の会場ではなく、少し離れた会場に参加する方がいて、乗り合いでタクシーを利用されている。(割り勘しているようだ。) • 交友関係により会場を選んで参加している方もいる。必ずしも自宅近くの会場に参加するわけではないので、バスやタクシー助成などがあれば、雨や雪の日など参加しやすくなるのではないかと感じる。 • 新型コロナウイルス感染症の影響で色々なイベントができない。 • 普段から向こう3軒両隣の精神で、独居の方の風呂介助、病院の付き添い、ゴミ出し等をしているが、言いやすい、頼みやすい環境づくりが大事だと感じている。 • 心配なので家を訪ねて声かけをするが、いらんお節介と感じられて、難しい場合があるが、そういう場合は、地域包括支援センターにつないでいる。 • 自治会に入っていない独居の人が支援の目から漏れてしまうのが心配だ。自治会と民生委員で情報共有できるような場があると改善すると思う。高齢者実態調査等で各戸を訪問している民生委員との温度差を感じている。 • 年金生活で自治会費を払えない独居の人もいるかもしれない。生活保護の人は全額免除の対象である。地区によって高齢者は半額免除のところもある。 • 活動的な高齢者が多いが、男性参加者が少ない。男性一人では行きづらい。地域に一人でも気軽に出かけやすいサロンがあるとよい。
障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> • 障がいのある方と関わることがあまりない。 • ひきこもりの子(40~50代)が同居していたら、要支援者名簿に上がってこないのでは、支援できない。 • 自治会にも入っておらず、普段から全く交流のない世帯についてはわからない。日頃からの近所づきあいがないと関係を築くことができない。自治会に入るような働きかけはできないものか。 • 自治会名簿も世帯主の名前のみで世帯の人数、世帯員名がわからないため、地区に住んでいてもわからない。

	<ul style="list-style-type: none"> • ささえあいマップについては、月ごとで変わることが多々あるので作成が難しいと思っている。 • 世帯員が支援に協力的でない方がおられ、結果的に支援できないことがあった。このようなことがないような仕組みができないか。 • 見た目だけでわからない障がいの場合（精神障がいなど）は、どう対応してよいかわからない。 • 就労経験のない40代、50代のひきこもりが増えている。親の年金をあてにして生活していたが、親が亡くなって年金が途絶えてしまうケースがある。早い段階で支援につながるとよいが。 • 幼稚園や小学校など小さい時から支えあいの土台作りと話ができる雰囲気大切。 • 以前は通勤寮があったため、公民館祭り等で交流の機会になっていた。 • 相談を受けた場合、包括や福祉課など行政につなげることが大事であり、相談先を知る事が必要。
<p>児童福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの姿が見えない。子ども会ごとの行事もなくなっているようだ。コロナが拍車をかけていると思う。 • 虐待などの話は聞いたことがない。 • ひとり親家庭の貧困問題については、社会の手が届いていない部分があるのではないか。 • 児童クラブのキャパシティを増やさないといけないのでは。日曜、祝日も使えるようにしないと、共働き家庭が多いから大変ではないか。 • 外江地区では小学生の登下校時に見守り隊として交通安全のための活動をしているが、それが生きがいとなっている。 • 外江小は集団登校だが、家庭に問題がありそうなところの児童は、遅れたりしているので心配だ。 • 子どもたちの遊ぶ場所が少なく、なかよし遊園地は、草刈はしてあるが、遊具がないため遊ぶ環境にない。 • 子どものために地域で何かをするのは難しいため、教育委員会に力を入れて欲しい。 • 子どもが集まる場所がない。遊び姿をみることができなく、今の子どもたちは何をして遊んでいるかわからない。 • おやじの会が子ども対象のフェスをしようと企画している。 • コミュニティスクールがきっかけで活動が活性化し始めた。

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 3期計画で成し遂げたものがあまりなければ、そのまま4期にスライドしてはどうか。 • 地域の元気な高齢者が自治会活動を担っているのも、その人たちを大切にしたい。 • ふれあいの家事業、体操事業等様々な事業を実施するにはやはり、地区の世話人の力が必要。世話人の高齢化も問題となっている。 • コロナ禍を経験し、ふれあいの家事業の大切さが改めてわかった。 • 防災無線がデジタルに変わってから、聞こえにくいという声が多く寄せられている。境港市の専用受信機を購入して聞いているが、米子市のようにFMラジオで聞くことができるようにしてはどうか。 • 外江地区でも子ども食堂の話が出ていたが、コロナの関係で立ち消えになっている。 • 共働き、母子、父子家庭が多くなっている。食事を作る時間がないから子ども食堂があると助かると思う。 • 子ども食堂について、夏は食中毒が心配。夏は配食サービスを中止している。 • 色々と支援したいと思うが、活動する側のなり手がなくて困っている。今は働いている高齢者も多いので、仕事で研修会に出席できないということがしばしばある。辞められると困るため、何も言えないが、結局年齢層が高くなってしまう。 • 空き家が増えた。 • 車で通れない細い道路が多く、若い人が出ていく理由になっているのではないか。 • コロナ禍で交流が減っているため世代間交流の大切さを感じる。地域の行事がきっかけになるため復活させたいが、行事を運営する人手不足や組織の高齢化、世代交代などの問題があり難しい。
------------	--

境	意見等
<p>高齢者福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 空き家、空き地、猫の問題。空き家、空き地に猫が住みつき、80歳以上の方がケガをした野良猫に餌やりをして迷惑していたが、市が訪ねて、餌はやらないようにと約束してくれた。 • 以前に比べて買い物に苦慮している。車の人はよいが、歩きの人は大変。移動販売車が市内にもあるが、それを利用することになるのかと思っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・老々介護が心配。市内に子の仕事がないため、市外に出てしまう。地域に残っているのは高齢者のみ。 ・高齢者も元気であることが必要。市が個人の健康管理等の年度計画を立ててもっとやっていかないといけないと思う。 ・ささえあいマップや地域福祉コーディネーターの紹介については具体的に動ける形にしたい。世帯数の多い自治体であり、一人暮らしの高齢者も多いが、若くて動ける方も多い。 ・民生委員の活動があまり知られていない。自治会と民生委員でもっと連携ができればよくなると思う。 ・高齢者の状況について、以前より市との情報連携が密に取れている。市に連絡した時に、スムーズに関係機関に繋がるようになるとうい。 ・民生委員と高齢者の関わりに、自治会が協力したい。個々に行うのではなく、市に仕組みづくりをして欲しい。 ・地域には、70歳以上の方が多い。 ・気づかないうちに老化が進んでいて、車でバックする際にブレーキとアクセルを間違える方がいるが、自覚が無い方への説明がなかなか大変である。 ・高齢独居の方が心配なため、助け合い、声かけしながらやっていこうと話している。 ・隣近所に見守りのためのおせっかいな人がいない場合は心配。 ・高齢者が多く、民生委員の負担が大きくなり、維持できるか心配。 ・みんなが心配しているが、プライバシーの問題があり、なかなか介入できないケースがある。 ・地区に高齢独居世帯が多いため、様々な情報を受け取りにくい状況にある。そのため、自治会で2年に1回アンケートを実施して、その情報をもとに、自治会で困りごとなどを協力して解決している。 ・地区の世帯人数が多く見えても、アパートに住んでいる者が多く、民生委員の候補がなかなか見つからない。 ・地域の特性として、商売を営んでいる世帯が多いが、人の目が行き届いていると思う。 ・高齢者が多く、その高齢者が困っているのであれば、それはみんなが困っていると言えるため、みんなが協力し合っている。 ・今の時代は65歳でも仕事をしている人が多いため、「高齢者」と呼ぶのは早いのではないか。70歳からでよいのではないか。 ・高齢者が亡くなり、空家が増えてきていることも課題である。
<p style="text-align: center;">障がい者 福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会で要支援避難者の名簿をもらうが、世帯くらいの情報だったため、新しい人は家族構成も聞くようにしている。障がい者と接する機会が少ない。個人情報の問題もあると思う。 ・民生委員は大変。プライバシーの侵害に当たらないよう活動するのが難しいと思う。ある程度入り込まないとわからない部分はあると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> • 地区に50代の障がいのある独居世帯があるが、デイサービス等も入っており、年代もまだ若く、心配していない。 • 障がいのある方については、民生委員を通して状況を聞くのがいいのか、民生委員に任せっきりでよいか悩むところである。 • 要支援者名簿ができていますが、本当に助けに行けるのか、具体的にどう動いたらよいかの模擬訓練が必要ではないか。 • 一人でできることは限られているため、情報が欲しい。ささえあいマップを作る際にどこに誰が住んでいるか、道が狭いなどマップを見て確認できる。 • 親族に障害があり、一人暮らしをしている者がいる。自立して欲しい気持ちもあり、どこまで支援するか難しく感じている。これが親族ではなく、地域の人となると、当事者も関わりたがらない人がいるし、迷惑がられることもある。 • 自治会と民生委員が連携できたら、たくさんの目で見守りができ、気づきも増える。(新聞が溜まっている、電気がつきっぱなしなど) • 障がい者の避難支援者名簿をもらっているため問題ない。 • 支援可能な家族がいれば心配ないが、世話をする家族が高齢者だとサービスが行き届いているか心配である。 • なかなか障がい者と一緒になる機会がないので、そういう機会があるとよい。 • 独居で障害のある方を知っている。入院されてもわからないことが多いため、連絡が取れるような手段があればよいと思う。 • 80代夫婦に50代の子のひきこもりの方がいる場合は、高齢者実態調査でも対象外であり、把握できない。 • 全体的に障害のある世帯の把握が難しい。
<p>児童福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 境小は1クラス25人くらいで、自治会に子どもがほとんどいない。 • 境地区の見守り隊は募集してもなかなか集まらないため、あまりやっていないと思う。下校時の放送もしていないと思う。強化期間は民生委員も手伝ってくれている。もっとたくさんの方に協力してやってもらった方がよい。 • 子どもは大切にしないといけないが、数が少ない。アパートに住んでいる方が多いのではないか。 • 小6の孫と同居しており、学校で無視や教室に入れられないなどの発言があるが先生が知っているかが不安。些細なことでも先生から親に知らせているのかわからない。 • コミュニティスクールの旗が至る所に立っている。これを見て育った子供たちは地域となじんでいる。みなとテラスができて高校生も自発的な活動を行っている。 • 境地区の良い取り組みとして、危険マップ作り、クリスマスカード作り、あ

	<p>いさつ運動などがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 顔を合わせて一緒に活動することが大事である。 • 活動を通して子どもたちは顔や名前を覚えていて、出会うと声をかけてくれる。ゴミ出しのときに登校の子どもが声をかけてくれる。かわいいからもっと見ていこうという気持ちになる。 • 4年前くらいから変化してきたのを感じている。小学校から育ってきて、自然と中学生でも自然と声をかけてくれる。 • 境地区は隣の上道地区に比べて子どもの減少が大きい。子どもは地域の宝である。少子化対策、子育て世帯に手厚い支援が必要。 • 子ども食堂など子どもの居場所づくりが重要だが、引っ張っていく人がいないと難しい。 • コロナ禍でひきこもりや不登校が増えているのではないか。 • 地区に子どもがいない。 • 境小に入りたいという若い人はいるが、土地がなく、家が建たない。 • 新しい世代とのつながりがある所はうまくいくと思う。 • 祖父母に面倒を見てもらっている世帯も多いと思うが、仕事を持つシングルマザーや、両親が共働きで子どもが一人になっている時間が多いと思う。 • ネグレクトについては、特に把握が難しい。市が把握できれば、スムーズな支援につながると思う。 • こども食堂を含め、子どもが集まる場所や居場所がもっとあればよいと思う。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 駐車場と空き家の間に誰かわからないが、不燃ごみを置いていく人がいる。市が看板を設置してもずらして置いている。 • ゴミ出しは近くの自治会と協力しているため、場所が遠いという問題はない。 • 空き地、空き家の問題がある。空き家はまだよいが、空き地は草やゴミ捨ての問題がある。 • 高齢化も問題。今以上に人が少なくなる危機感がある。ふれあいの家のように、頑張れる人は年齢を超えても頑張ってもらい、支える側でいてもらいたい。 • 前回の計画を振り返り、どんな課題があるのかを先に知りたかった。 • 済生会病院の診療科（整形、産婦人科）がなくなったため便利が悪い。 • 子どもの居場所づくりは大切だが、市民だけでは難しい。学校・地域・公民館・行政等の連携が必要。 • ふれあいの家を含め、公民館の土曜（子ども）の集まりも決まった人しか来られない。気になる人が来てくれない。個人情報のこともあり、必要な方への支援が難しい。 • グランドゴルフなどは情報交換の場となるため、みんなが集まる場所には出かけた方がよい。

	<ul style="list-style-type: none"> 昔と比べて盆踊りなどイベントが減った。今はコロナ禍という状況であるが、大人も子どももみんながもっと集まれる場所があればよいと思う。
--	---

上道	意見等
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> みんながある程度つながりを持てるようにしなければならない。コロナで訪問を嫌がる人もいるが、話をしたがっている人もいる。話をしてあげないとダメになってしまうと思う。出会って話をする機会を作ることが大事。 コロナのため運動会などで集まることがなくなったため、周りの人の状況がわからなくなった。 ふれあいの家は独居の人の利用が多く、みんないい顔をして帰られる。その顔を見ると援助員の励みになる。 火災でなくなる高齢者が多い。助けを求める人が多いので、共助・互助でどれだけ頑張れるかが鍵である。 民生委員は守秘義務があり、話せないこともあるが、8区のささえあいマップ作りは、いろいろな情報がみんなから出ていてよかった。 高齢者のみの世帯が増えてきた。周りとの付き合いがないことや、自治会にも入っていない場合も多い。お亡くなりになっても自治会が知らないことがある。 独居の人も多い。向こう三軒両隣を常にお互いが見守れる体制を作るとよい。 話しやすい関係を日々の生活で作って、コミュニケーションをとることが大事。ふれあいの家に参加しておられる方も多く、いいことだと思う。 空き家を使って、サロンみたいなことができるとよい。 1区は一人暮らしが多い印象で高齢者や空き家が増えている。 7区は市営住宅があり、新しい家が増えてきているが、自治会に入らないため、名簿を見ても顔がわからない。 6区は空き家が多いが、高齢者も若者も多い。東西で様子が異なる。
障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 車いすに乗っている人はわかるが、見てわからない人は難しい。 知識がないと関わっていけないと思う。 昔は障がいを隠す親がいたが、今は小学校でもオープンになっている。 子どもに障がいがあると親も働けない。 障がいのある方の支援は地区では難しいため、公助につなぎ、受診を勧めるものの、親子とも受け入れができず、心を閉ざしてしまうのが問題。 地区に昔から住んでいる人はわかるが、新しく来た人はわからない。 どの人が障がいをお持ちなのか、自治会でも把握している。 障がいのある方は家族がいれば、家族の支援が一番良いと思う。支えあいマップを作ったが、自治会としてどこまで関わってよいのか悩む。

	<ul style="list-style-type: none"> ・MAOやエピクルがあるが交流がない。機会があれば手伝いや交流がしたい。 ・障がいを持っている人はいると思うが、把握していない。相談があった時の対応のために相談先を知っておきたい。
児童福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生からあいさつされることは多いが、中学生になるとしてこなくなる。 ・一中校区には見守り隊の旗が100数本立ててあるのと町内放送で、不審者の抑止力になっていてよい。今は不審者がいなくなってきた。 ・児童クラブでは外で遊ぶ子どもが見られない。 ・子どもの貧困かネグレクトが原因なのか、冬でも薄着をしている子どもがいる。 ・不登校の子どもがいるが親が何も言わない。ヤングケアラーもいると思う。 ・地域での見守り隊、児童虐待、ヤングケアラーなどの問題は、地域だけだとなかなか見えてこないため、学校と連携することが必要だと思う。 ・「子ども食堂」という場所がいくつかある。子どもの居場所づくりは大事。 ・子どもが少ない区と多い区の差がある。運動会の集まりにも差がある。 ・朝の声かけ運動が定着しており、我が子感覚で接してくれる。 ・昔と比べて外で遊ぶ子が減っているように思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・社協バスはコロナで利用できないことや制限があったが、便利がよくなって欲しい。ふれあいの家を利用する高齢者が、色々なところへ行けて喜んでいる。 ・ワンルームのアパートが増え、自治会に入らない世帯が多くなっている。 ・特に独居の高齢者にとって、ごみの分別は難しい。 ・自治会や公民館も取り組んでいるが、独居の人が家から出てくるような会を市や社協に開催して欲しい。 ・日中仕事をしていると、子どもたちにまったく出会うことがなく、どこにいるかわからない。 ・最近は声をかけることが「不審者」と思われる時代になっているため、日頃から挨拶をして顔見知りになることが一番大事である。 ・地域でボランティア活動をしていると、子どもたちが顔を覚えて声をかけてくれる。 ・学校と地域がつながっている。 ・自治会活動や夕涼み会などコロナでできなくなった交流活動が多い。 ・上道地区だからこそまとまりやすいのかもしれない。地区で特徴はあるが、自然に接しあえている。しかし、コロナ禍により交流機会が減少しているため、子どもを中心とした集まる場所を作りたい。

余子	意見等
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> • 余子地区では移動販売をしているが、そこに来る高齢者は、買い物だけでなく、人と話をすることを目的としている。自分も高齢者の話し相手になるため、毎回顔を出している。 • 移動販売には、買い物弱者への支援だけでなく、居場所づくりや安否確認の意味もある。取り組みを継続させるためには、売り上げが少なかった場合でも継続できるよう、市が支援する必要があるのでは。 • 移動販売は、買い物難民の対応ではなく、集まる場所、会話を楽しむ場所としてスタートさせた。 • 買い物難民への対応は、余子地区においても徒歩可能圏域を考えると、全人口をカバーすることは不可能と思われる。あきらめも必要。 • 65歳以上の独居世帯が高齢者実態調査の対象になっているが、まだ若いため、高齢者を見守る側であるので、対象とするのはおかしいのでは。
障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> • 障がいのある方を高齢者のように地域で見守るのは難しい。 • 身体障がいや精神障がいなど様々あるが、寝たきりの方については、我々で対応しようがない。 • 障がいのある方への対応方法がわからない。 • 竹内町では安心安全ネットワークという組織を作って、障がいのある方を含め見守り活動を行っている。 • 支え愛マップづくりに力を入れている。高齢者の情報はよいが、障がい者については、隠す家庭もあるため記入することに抵抗がある。 • 障がいがある方本人の了解を得られた方について、民生委員と自治会と情報交換を行い、把握に努めている。 • 竹内町では、緊急医療カードが入った安心カプセルを配布し、緊急医療カードにかかりつけ医や病名、薬、障がいの程度等の情報を記入してもらうことで、要支援者の状況を把握することができる独自システムを構築している。 • アパートの方の自治会加入率が低い。組織に入らない方の把握はできない。
児童福祉	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者に対しては、百歳体操やふれあいの家など、市はたくさんお金を使っているが、子どもに対しては使っていない。 • 子どもたちから自治会長が愛称で呼ばれるほど親しまれている。こういう人は地域の財産だ。 • 余子地区は、各地区で運動会や祭りを実施していたが、コロナ禍以降開催できていない。是非、復活させたい。そういう機会に地域の子どもたちを把握していた。 • 竹内町は、規模縮小したが、今年は運動会やソフトボールなどを色々開催した。 • 夕方になっても家に帰りたがらない子どもがいた。親は仕事で、祖父母は

	<p>しつけが厳しかった様子。その子どもを自治会に入れたら、自然と家に帰るようになった。自治会の力は大きい。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 酒癖が悪く、親に暴力を受けている子どもに対しては何もできないため、市役所などに相談する。 • 自治会でYouTubeチャンネルを開設して、取り組みを配信している。動画編集を子どもたちに任せたりして、子どもも親も動画を見ることを楽しみにしている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもも大人も集まることを望んでいる。 • 市は様々な施策を行っているが、ちょっと他の分野になるとすぐ担当が違おうと言ってくる。少ない職員で効率的にやっていくにはそのような縦割り行政ではいけない。 • 計画を作成して何がしたいのかが重要。個々のことではなく、地域全体のまちづくりをどうするか等の視点が必要。全部やるのは無理なので、絞ってみては。 • 65歳を過ぎても仕事をしている方が多く、地域を支える担い手が少ない。援助員を設けているが、年齢関係なく、90歳でもやりたい人はやりたいと言っている。 • 自治会活動を通して、常に次世代の担い手を探している。構成員の育成も大事。 • 市は高齢者に対して十分な政策をやっている。有償ボランティアや若者世代の結婚などが課題。

誠道	意見等
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> • 90歳近いはずだが、みんな元気でそんなに困っていない。 • 施設入所待ちについては、そこまで問題になっていないようだ。 • グループホームなどの施設に入所されている方が、孫に小遣いをあげているようだが、費用をどうしているか心配。 • 独居の方は把握しており、民生委員が訪問している。 • 近所の高齢者に車で送迎を頼まれ、千円などをお礼に渡そうとされる方もいる。タクシー等にも配慮して、市からボランティアのお礼用の何か（商品券など）があればよいと思う。 • 買い物に難しい人に対しては、誠道でも移動販売を検討してはどうか。 • 民生委員のなり手について、仕事をしながらやるのは、しんどいと思う。 • 独居老人が増えており、どこに誰が住んでいるか情報が不足している。病気で亡くなって発見されることもあり、心配している。 • 日頃から電気が点いているか、生活音が聞こえるかなど、近所の独居世帯の安否を確認している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護の関係もあり、家に表札がなく、自治会に加入していなければその世帯の情報はわからない。公民館から情報発信したくても伝わらない。行政から自治会加入について、もっと発信して欲しい。 ・地域の活動に出てこられない方のアプローチが難しい。自治会に入らないと地域と高齢者の繋がりができない。 ・公営住宅の入居は、高齢者や母子世帯が優先であり、公営住宅内の高齢化率は高い。そこを支援する若い世帯の負担が重くなってきている。
<p>障がい者 福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的な障害のある方はあまり見かけない。発達障がいがある子どもを何人か知っている。 ・年配の親が子を看ている、いわゆる8050問題がある。親の年金で暮らしており、亡くなった後はどうするのだろうと心配している。 ・障がい者施設に入所している者がいるが、コロナ禍でストレスが溜まっている。発散する場がもっとあればよい。 ・民生委員は要支援者名簿で把握はできるが、名簿に掲載されていない方の把握ができない。 ・避難時は自治会単位で行うが、自治会に加入していない方の対応が難しい。 ・対応策が理想論に基づいて策定されているが、障がいを持っている方の生活実態をしっかりと見極め、実態把握を行ったうえで、啓発・理解を求める対策が必要。 ・役を持っていない人にとっては、障がいをはじめ、個々の人の情報を把握することは困難である。 ・誠道地区は歴史が浅いため、昔ながらの付き合いが少なく、プライベートをさらけ出すことへの拒否感を持つ方も多い。 ・情報がなく、誰に障害があるかわからない。聞くにも聞けない。 ・最近は障がいのある方を見かけなくなった。関りがほぼない。
<p>児童福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幸神町でこども食堂をやっているが、誠道でも子どもが食べれていない世帯があるのかわからない。 ・学生服当のリユース事業があるが、入学時期だけでなく、定期的を開催した方がよいのではないか。 ・誠道の児童クラブは小学校の統合でなくなったが、3年生までのところを試験的に6年生までやっていた。母子、父子、共働き世帯には助かると思うため、検討していただければと思う。 ・誠道小学校の廃校により、町で子どもの声が聞こえなくなった。 ・地区で子どもを集めた行事をしたくても、新型コロナウイルス感染症の影響とPTAの協力がなかなか得られず実施できない。 ・働き甲斐ややりがいのある職場があまりないため、進学等で境港市を出て行った子どもたちが帰ってこないで、限界集落になるのでは。 ・子ども会はあるが、加入しない世帯もある。理由は役員になりたくない

	<p>というような親の気持ちからということがあり、問題だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全週間の際の地域活動も、地域がするのが当たり前ということで、親が出てくるのが少なくなってきている。子どもの見守り活動にも親は出てこない。 コロナ禍の影響もあるが、誠道小学校が廃校になってから、地域と子どもたちの関りが激減している。小学校がなくなったのは失敗だと思う。誰に言ったらいいのか。 子どもを持つ親は、小学校がない地域を住む地域に選ばない。公営住宅は高齢者優先で高齢者が増え、子どもたちは少なくなり、残った地域の若い世帯は限られてきており、その方たちがずっと地域の役になり、負担が増えて問題となっている。 学校に行きたくないと言っている子がいて、地域の人が心配して公民館に相談に来たことがある。子どもの居場所づくりとして公民館に来てもらったりしている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発達障がいの方で、暴力や窃盗など問題行動のある方については、どう支援してよいかわからない。 公営住宅は、一般的な世帯は入れないため、独居老人か高齢者世帯が多くなり、バランスが悪くなる。 自治会に入らない方が増えていくことを前提に、どうやって、漏れなく対応していけるのかを考えなければならない。 若い人の自治会加入率低下により、地域組織の高齢化が進み、共助が成り立たなくなりつつある危うい状態である。 自治会役員等も世代交代が必要であるが、時間の制約や自己犠牲を伴うことから、なかなか若い世代に協力が得られず、支え手の高齢化が問題である。 極論を言うと、自治会という母体がしっかりしていると、すべての問題につながると思う。 公営住宅の自治会加入率が低く、問題となっている。 高齢者が多く、その人に役員を頼めないため、いつも同じ人が役員をしている。どうしたらいいのか。

中浜	意見等
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者について問題提起をして、地域をあげて考えているが解決に繋がらない。どのように対応したら良いのだろうか。 • コロナでいろいろな行事が中止となる中、何か他の手段を考えないといけないのではないか。 • コロナ後、行政は、地域にある程度任せるような支援・運営ができるように変わっていくべきではないか。 • 公民館で、高齢者の居場所作りに取り組んでいる。 • 介護保険などの制度の内容が分かりにくい単身の世帯などがある。 • 弁当配達などで様子を見る取り組みをしている。 • 高齢者実態調査以外の世帯の情報が入らないため、実態把握が難しい。例えば、60歳代と90歳代の同居世帯などは対象外。情報共有が大きな課題である。 • 100歳体操等、認知症予防にもっと力を入れてもらいたい。 • 買い物困難者の問題。中浜地区は自転車に乗れないとスーパーが遠く、バス停までも遠い。デマンドバス等の制度を考えてもらいたい。
障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> • 災害時の避難者情報については、個人情報保護の観点から、名簿が持っているだけとなり、活用されていないのではないか。 • 実際の緊急事態においては、班長、近所の人たちが頼りであるから、そこには情報を伝えておくべきではないか。普段からの意思疎通が大事である。 • 原子力防災訓練等、障がい者の方をバスに乗せることができるのだろうか。対策をきちんと具体的に考えていかなければならない。 • 身障協会の会員が高齢化で減少している。要支援台帳を作成する際に、声掛けをして会員を増やす取り組みをしてはどうか。作業所などが一般の企業と連携したようなつながりが増えている。 • 障がいの症状がいろいろあり、どのように接したらよいか難しい。 • 特別扱いをしないことで、障がい者の方も地域で生活できる社会になることが大事なのではないか。 • 情報が入らないことを解消するためには、交流が大事であり、触れ合うことで気づくことがある。
児童福祉	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの遊ぶ場所がない。 • 外で遊ぶことは大事なことなのに、うるさかってホースで水をかける人もいる。 • 子どもたちへのお年寄りのボランティアも減ってきている。 • 防犯についてもいろいろな意見はあるが、なかなか実現しない。 • 市へも支援の声を届けるが、市からの地域への情報発信を大事にしてほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> • 新生児訪問・ファミリーサポートセンター等の制度があり非常に助かっている。 • 保育所の年度途中入所が難しいため改善をお願いしたい。 • 子どもの思い出作りやその保護者との繋がりが目的の子ども食堂の取り組みを通して、子ども同士の繋がり・さらには県の制度等とも繋がりができた。 • 放課後の居場所作りへの取り組みでは、不登校の子どもの居場所にもなっている。 • 児童虐待は、表に出ないことも沢山あるので、誰がその情報を知って、誰がどう対応するのかということが大きな課題である。 • 中学校にスクールコーディネーターがおり、地域と学校を繋ぐ活動が進んでいる。地域の方と子どもが触れることが大事である。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会長がおせっかい役に徹してほしい。 • そこで情報が入ってくる井戸端会議のような昔の良いところを残していきたい。 • どういうきっかけで人は変われるのか分からないので、いろいろな取り組みが必要である。 • 地域福祉計画ができた後に再び集まり、計画を推進していくための話し合いをすることが大事ではないか。